
えいぷりるふ～る

クリア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

えいぷりるぷる

【Nコード】

N4186P

【作者名】

クリア

【あらすじ】

4月1日、私が部屋に行くとそこには真剣に考えるりっちゃん
の姿があった。私はりっちゃんの悩んでいる理由を聞くと、何と
漣ちゃんに対する嘘を考えていたのです。

これは4月1日の時に起きた、小さな事件である。

その日、私はいつもの様に部屋に入ると、りっちゃんが椅子に座った姿が見えたのです。

いつもなら私の方が早いのに、今日は珍しいなと心の奥で思いながら、私はりっちゃんに挨拶しました。

「りっちゃん、今日は早いね」

「まあね、今日は特別な日だし・・・」

「特別な日？」

「そう、特別な日なんだ。今日は何の日だと思う？」

私は椅子に座ってその答えが何なのかを考えて、こう答えました。

「分かった、りっちゃんの弟さんの誕生日だね？」

「ぶっぶっ！！ ハズレだよ」

「ええ、違うのー!？」

「制限時間は5秒だよ」

「ええ〜!!! ん〜と・・・え〜と・・・」

私は一生懸命考えたけど、りっちゃんはいたはずらっ子の様な声でカウントが耳に入り、考えたくても考えられなかった。

「ぶつぶ〜!!! 正解はエイプリルフルだよ」

「あっ、そうか・・・今日は4月1日かあ〜・・・ってことは、りっちゃんは嘘ついた？」

「ふっふ〜ん!!! 朝から弟をね〜」

「うわあ〜、凄いねりっちゃん!!!」

私が尊敬の眼差しで見つめていると、りっちゃんは誇らしげに胸を張っていた。

いいなあ、私もりっちゃんみたいに誰かに嘘をついてみたいなあ。

・

「でさ、これから遷をはめようかと計画しているんだ」

「ええ!?!? 遷ちゃんを!?!?」

「しい〜!!! 声が大きいで、ムギツ!!!」

りっちゃんにそう怒られて、私は急いで口を塞ぎました。落ち着

いた事を2回ほど確認して、私はその計画を恐る恐る聞いてみました。

「りっちゃん、澪ちゃんに嘘をつくって本当？」

「ああ、本当だよ。澪って意外と騙されやすいからな」

「じゃ、どんな嘘をつくの？」

私がそう聞くと、りっちゃんは困った表情になって言いました。

「そこが問題なんだよな……ホラー系で攻めるのも気が引けるしな……」

ホラー系で攻めないことを聞くと、私は少し嬉しく思いました。だってそれは、澪ちゃんが本当に苦手なものだと分かっている証拠だからです。

「りっちゃんは優しいねえ」

「きつ、急に何言い出すんだよ、ムギツ!! 私は別に優しくないし……」

「でも、照れ照るよね」

「うっ、うっさあい!! とにかく、考えるぞ……」

顔を真っ赤にしたりりっちゃんは、偉そうな姿勢で座っている。

そんな姿を見ていると何だか……こう……可愛く思えてきて……

ああ・・・その座り方がとても・・・えっちいです・・・妄想が止まりません。

私はりっちゃんに気づかれない様に、そっと手を動かして目を擦る。そして、再びりっちゃんを見る。

うん、今日も私の『ムギビジョン』は完璧だわっ！！　だって、りっちゃんが白馬に乗った王子様に見えるんだもん！！　そして、お姫様役はもちろん澪ちゃん！！

そして物語の終わりに、澪ちゃんとりっちゃんは2人きりになって・・・ああ、完璧だわっ。完璧すぎて、私自身がとても怖い

「・・・むふふ」

「・・・ムギ、どうしたんだ？　おっい・・・」

「はっ！？」

りっちゃんのお陰で、何とか私の脳内再生が止まる。ばれてないよね！？　危なかった！！

「で、何かいい案浮かんだ？」

「うん・・・とねえ・・・」

私は再び考える。

・・・ごめん、りっちゃん。私、こういう事を考えるとついス

イツチが入っちゃうの

「・・・りっちゃん、いい案が浮かんだよ!!!」

「何、本当か!? で、どんな案なんだ?」

私はそっとりっちゃんのそばに行き、耳元で作戦をコツソリと伝えた。

「それはね・・・っていう案」

そう話し終えたたん、りっちゃんの顔が熟したトマトの様に真っ赤になってうるたえ始めました。

「なっ、何〜!! 駄目だっ!! 却下!!」

「ええ〜!! 良い案だと思ったのに・・・」

「駄目だっ!! 却下は却下!!」

そう言い切った時に、部室のドアが開いて、漣ちゃんが入ってきた。

「おお、律にムギ。 早いな」

「うん、ちょっとね。 今、お茶入れるね」

私がそう立ち上がると、りっちゃんはキョロキョロと不自然に首を動かし始めた。

りっちゃんが慌てて近づこうとした時、ボタンとドアの周辺から音が聞こえた。

そこにいたのは頬がプチトマトの様に赤くなった梓ちゃんに唯ちゃん、そしてさわ子先生の3人だった。

「りっ、りっちゃん・・・今のはもしかして・・・」

「愛の・・・告白・・・ですか？」

「まさかとは思っていたけど・・・2人はここまで進んでいたとは・・・」

その言葉を聞いたりっちゃんは、顔を赤くする所か真っ青になってしまった。

そんなりっちゃんも可愛いよ

「いつ、いや・・・これは嘘だよ、嘘。今日はエイプリルフルだよ!！」

そう必死に言うが、説得力はまったく無し。そしてさわ子先生が急に泣いた顔になって言った。

「私より先に進むなんて・・・許せないわっ!! 今から回りに言いふらしてくるっ!！」

「さっ、さわちゃん先生っ!! 何気が狂った行動してるんのっ! ? これは嘘、ドッキリだって!! 今日エイプリルフルだろ

おお！！！」

そう叫んで出て行くりっちゃんときわ子先生を見て、唯ちゃん達は呆然とした表情で立っていた。澁ちゃんは、相変わらず顔を真っ赤にして床に倒れている。

そんな中、私は自分がりっちゃんに言った嘘を実行してくれた事に対して感謝していた。

ありがとうりっちゃん！！ あなたのお陰で今日はすばらしい日になったわ！！ 目の保養にもなったし

「・・・あとでまたこれを想像しよう」と

そう呟いてお茶の良い香りと味を堪能する今日の今頃。季節は春になったばかりで、少し肌寒い。けれど、私の全身がぽっかぽかに暖かい事は、この部屋の中で私だけなのであった。

後日、りっちゃんの誤解が解けるまで実に1ヶ月掛かったとき。
めでたし、めでたし

(後書き)

まず初めに全国のムギファンの皆様に謝りたいと思っています。
どうもすいませんでした・・・キャラ崩壊激しくて・・・本当に
すいませんでした。

『放課後ティータイムを楽しく書きたいっ!!』と思っていたら、
こんな作品に・・・

何かもう・・・泣きたい気分です。

けれど、感想その他もろもろ大募集です。 それでは・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4186p/>

えいぷりるふ～る

2011年7月15日15時23分発行